

事例3

太田 鉄平 さん
(仮称・87歳)
のケース

「住み慣れた町で安心して生活していくための支援を通して…」

現在の生活について

太田鉄平さん（仮称・87歳）は、妻の早苗さん（仮称・80歳）と2人で暮らしています。昨年まで農業に従事していましたが、前立腺肥大症と肺気腫の疾病により入院しました。退院後は身体に大きな障害はないものの、前立腺肥大のため排尿が困難で夜間に数回トイレに起きることが多いためか、日中はほとんどソファで横になって過ごしており、数日に1回早苗さんの付き添いで散歩に出かけていますが、閉じこもりがちな生活を送っています。

現在は、早苗さんが一人で通院の付き添いや清拭等の介護を行っていますが、腰痛もありこれ以上介護の負担が増えることへの不安を感じています。

また、最近では鉄平さんの物忘れも進んできており、早苗さんが安心して買い物等にも行けない状況になっています。

鉄平さんは介護保険制度の要介護認定を申請しており、先日要介護2との判定を受けたため、地域の様々なサービスを利用したり、早苗さんの介護負担がこれ以上増加しないための福祉サービスの提供と福祉用具や住宅改修の活用を考え、鉄平さんと早苗さんがともに安心して生活していくための支援を行うことになりました。

日常生活の様々な場面においては、前立腺肥大のため夜間に数回トイレに起きることが多いのですが、床からの立ち上がりが困難で、歩行時には家具や壁につかまりながらすり足で歩く状態のため、特に夜間のトイレは転倒の危険があります。

また、玄関前に段差があり外出の際に手間取ることがあり、そのまま外出を拒否することもあります。

早苗さんも高齢であり、夜間のトイレへの付き添いによる不眠や腰痛などの介護疲れが増えてきています。

以上の状況をふまえ、在宅介護支援センター職員、社会福祉協議会職員、福祉用具専門相談員でご自宅に訪問し、鉄平さんへの支援について検討を行なっています。

安心して生活していくための 様々な方法や工夫を考えてみましょう

そこで、在宅介護支援センターの職員と福祉用具専門相談員が、鉄平さんと早苗さんが安心して生活していくための様々な方法や工夫を考えてみました。

ホームヘルプサービス、デイサービスの利用で 閉じこもりや昼夜逆転等を解消しましょう

鉄平さんには昼夜逆転の傾向があるので、ホームヘルプサービス、デイサービスの利用で昼夜逆転を解消することが必要でしょう。鉄平さんがデイサービスを利用するようになると、早苗さんも安心して外出することができるようになります。

また、デイサービスにおいて排泄のリズムを整える工夫とその情報を管理することが必要でしょう。これにより在宅での家族の負担が減ることを考えていくことが重要であり、そのことが鉄平さんの生活の質を上げていくことにもつながっていきます。入浴についても、きれいにして帰宅させることで、早苗さんの自宅での介護負担を軽減していくことが必要です。

さらに、デイサービスにおいては、自宅ではできないリハビリ等を行なうことにより、自立へ向けたチャンスを与えることとなります。自宅でもホームヘルパーの見守りによりリハビリメニューを実施し機能維持を図りましょう。

そして、デイサービスが担う機能や役割はとても大きいので、デイサービスの機能強化のために理学療法士や作業療法士といったマンパワーを確保することや提供するサービスメニューの定期的な見直しを行なうことも今後は必要となってくるでしょう。

安全に生活できるための環境を整備しましょう

鉄平さんは前立腺肥大のため夜間に数回トイレに起きることが多いようです。暗い廊下での移動は非常に危険です。寝室からトイレまで足元灯を取り付けたり、手すりを取り付ける・滑りにくい床材にする等の廊下整備が必要でしょう。夜間のみポータブルトイレを活用する方法も有効だと思います。

また、立ち上がりに不安があるようなので、トイレの手すりの整備も必要になるでしょう。

このような整備を進め、トイレへの付き添いが解消されれば、早苗さんの介護の負担も軽減されるでしょう。

次に、玄関の段差のために外出に手間取り、外出が面倒になってしまう傾向があるようです。玄関の段差については外出を困難にしており、また非常に危険なので、段差を解消するような住宅改修を行うことが望ましいでしょう。

さらに、鉄平さんが閉じこもりがちにならないように、社会福祉協議会のボランティアによる外出介助が可能か検討してみることも大切です。

この他にも、社会福祉協議会のボランティアを活用することで、ホームヘルパー不在時における介護サービスの補完を検討することも必要でしょう。



地域の支援関係者や家族の様々な支援を通して…

そして、「個別相談」実施後これらの専門家のアドバイスをもとに、まずは住宅改修を行うことになりました。

安全に生活するための環境の整備を通して…

鉄平さんはポータブルトイレの使用を拒否し、夜間でもトイレでの排泄を希望したため、廊下の移動を安全にするために、廊下に手すりを取り付けることになりました。

次に玄関においては上がりかまちの段差を解消するとともに、玄関先に敷いてあるマットの下に滑り止めシートを敷き、転倒予防に配慮しました。また靴の着脱時に使用できるよう、玄関にも手すりを取り付けました。

ケアマネジャー・福祉用具専門家からのアドバイス

今回の相談を通して、妻の早苗さんから「今までは、鉄平さんが手すりの取り付け等の住宅改修を拒否していたので、今回の相談で少しでも介護負担が軽減されるような住宅改修ができて本当によかったです。」との言葉をいただきました。

鉄平さんは多少頑固なところがあり、家族の提案したことを素直に受け入れられない傾向があるようですが、第三者の介入により、住宅改修を進めることができ、結果的には転倒予防や介護負担の軽減につながることができたようです。

今後も随時連絡を取りながら、鉄平さんと早苗さんの支援を続けていきたいと考えています。